

嘔吐物が付着した衣類の対処法

これから冬にかけて嘔吐をする感染症が増えます。嘔吐物は、二次感染を防ぐために速やかな処理が必要です。まずは窓を開けて換気を行ない、ゴム手袋やマスクで体を覆って嘔吐物に触れないようにしましょう。

ご家庭で嘔吐があった際、慌てずに対処できるように処理方法を覚えておきましょう。

用意するもの

- ・使い捨て手袋
- ・使い捨てマスク
- ・バケツ
- ・雑巾
- ・消毒液(塩素系漂白剤など)
- ・ビニール袋
- ・使い捨てエプロン(あれば)
- ・ペーパー

① 感染予防のため換気しながら処理する

吐物にはウイルスが含まれているため、ウイルスが体内に入ると感染することがあり、注意が必要です。

② 吐物を取り除く

衣類についた吐物をペーパー等で拭き取り、ビニール袋に密封して捨てましょう。

③ 消毒液を作る



6%の原液の場合、
ペットボトルキャップ
4杯分=20ml
(家庭用塩素系漂白剤)

水 1L

④ 消毒液にしっかり浸す(目安は30分)

衣類を広げ、しっかり消毒液に浸します。



色落ちします!

色落ちさせたくない場合は、85℃以上の熱湯に1分以上つける方法もあります。

⑤ ほかのものと分けて洗濯する

⑥ 手をよく洗う

おしえて♥ナース

「インフルエンザにかかってしまったら」

インフルエンザやノロウイルス感染症など、冬に多い感染症が流行る季節がやってきます。

コロナ禍の影響を受けて、昨シーズンは3年ぶりの流行となりましたが、春や夏になっても流行が続くといった異例の事態がおきています。

感染対策を行ないつつ、かかってしまった時には、初期症状の段階で適切な処置ができるようにしましょう。

☆ インフルエンザの特徴

咳やくしゃみなどによって感染し広がる病気で、感染力は強いです。悪寒・急な発熱、関節痛に続き、下痢、嘔吐、咳、くしゃみ、喉の痛みなどの症状がみられます。放っておくと周りへの感染を広げるだけでなく、合併症の危険も伴うので、インフルエンザかな?と思ったら、医療機関を受診しましょう。

☆ 登園の目安

発症後5日を経過し、かつ解熱後3日を経過するまでは登園停止期間となります。

その他、咳など諸症状が改善傾向にあることや、集団生活を過ごすにあたり、全身状態が回復していることが、目安となります。

敬愛学園

URL: <http://www.keiaigakuen.com>

敬愛保育園	Tel042-663-4017
敬愛高倉保育園	Tel042-645-6057
敬愛フレンド保育園	Tel042-678-2921
敬愛たかお保育園	Tel042-667-1077
敬愛きたの保育園	Tel042-646-1631
多摩境敬愛保育園	Tel042-775-1470
敬愛桃の実保育園	Tel042-770-1113
みなみ野敬愛保育園	Tel042-637-5265
敬愛ハーモニー保育園	Tel042-646-5060
敬愛クレヨン保育園	Tel042-669-0161
敬愛シンフォニー保育園	Tel042-669-5501

けいあいがくえん

健やかな子

保健編5号
令和5年度
11月号



すこやかなお肌を保つために

嘔吐物が付着した衣類の対処法

おしえて♥ナース

「インフルエンザにかかってしまったら」

Social Welfare Corporation
Keiai Gakuen

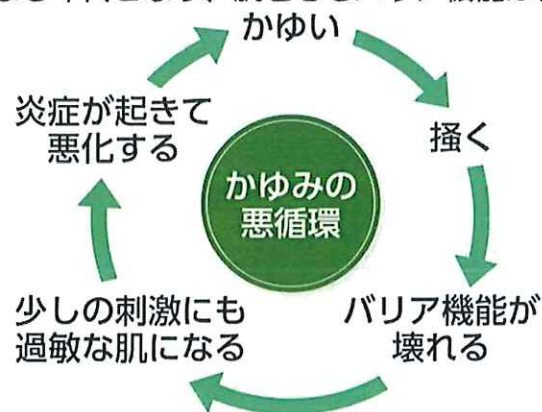
～すこやかなお肌を保つために～

秋から冬にかけては、空気が乾燥する季節になります。これからの時期はお子さまの肌も乾燥しやすく、トラブルを起こしやすくなります。ポイントをおさえたスキンケアを行い、お子さまの肌をすこやかに保っていきましょう。



「皮脂は肌を守る」

幼児期の肌を守る上で重要なのが「皮脂」です。皮脂はワックスのように肌をコーティングしているようなもの。皮膚から水分が逃げるのを防ぎ外から入ってくるものをブロックするので、肌を守るために大切です。ですが、生後4～5カ月をすぎた乳幼児期からは、皮脂の分泌量が少なくなる年代となり、肌を守るバリア機能が弱く、乾燥しやすい特徴があります。



・保湿剤の種類と特徴

- ① 軟膏タイプ→保湿性に優れている。
べたつき感あり。
- ② クリームタイプ→軟膏と比べ、べたつかず、塗り心地がよい。
- ③ ローション→伸びがよく塗りやすい。
保湿力は弱い。
最近ではスプレー式もあります。

スキンケア



●入浴ポイント

毎日の入浴で体を清潔に保つことは大切ですが、洗浄力の強い石鹸やボディソープで洗うと、かえって肌を乾燥させます。洗浄力がゆるやかで刺激の少ない物を少量、よく泡立ててから使いましょう。肌が乾燥気味の時は、タオルを使わず、手で優しく洗う程度で十分です。また、保湿成分を含む入浴剤を使用するのも効果的です。かゆみ強い時は、ぬるめの湯温で入浴しましょう。

乾燥対策のポイント

湿度が50%以下になると、皮膚の乾燥が始まると言われています。加湿器の使用や洗濯物の部屋干しなどで室内の湿度調整を行い、衣類は通気性のよい物を選びましょう。特に乳児は、冬場だけでなく一年を通したスキンケアが欠かせません。医師や薬剤師に相談して、お子さまの肌質や年齢に合った保湿剤を見つけておくといでしょう。